



## 第10回日本文化交流団(ユジノサハリンスク、コルサコフ)

千葉 麻里

昨年訪問したサハリンの日本国総領事館から、今年もまたきものと風呂敷の講習会を依頼されたのは昨年の9月。総領事館の実施する草の根文化交流事業「日本文化講習会」に参加するため、派遣講師として名島薫、渡邊絹江、千葉の3名で、今年3月15日に千歳空港から1時間足らずのユジノサハリンスクへ向かった。総領事館の多賀さんが出迎えてくれて、おなじみのガガーリンホテルへ。

翌日は「日本文化デー」で、市内最大のショッピングモールできもののデモンストレーションと体験コーナーを実施。会場は人だかりで上の階の廊下にも見物客がつかまけていた。他にも、茶道、地元の先生による活け花やよさこいソーラン節、合気道の演舞などがあり、周囲には領事館から運ばれた雛人形、習字や折り紙の実演コーナーもあってたいへんな賑わいだった。きものの体験コーナーには大勢が押し寄せ、2時間で100名以上は着せたと思うが、それでも希望者が立ち去り難いようすで気の毒だった。

17日は午前中に市内を見て、新しいスキー場の立派なゴンドラで雪山にのぼり町を一望できた。昔日本が建て、その後壊された建物や施設も再建されて、ユジノサハリンスクは急速に整備されているらしい。外国人の多いスキースクールも見られた。

午後には、州立図書館で風呂敷講習会。今年は、包むということに関連して袱紗や折り形(和紙を使い、包む物により厳格に折り方が決まっている。現在は祝儀袋が一般化しているが、遊戯折り紙よりも歴史が古い)も紹介して風呂敷との違いを説明した。それから、簡単なバッグ、ボールやピンや



シティモールで

ライドも使い、和裁、振袖の着方、種類とTPO、模様について解説。モデルさんは振袖を3人、男性の袴、訪問着、女兒、男児の7名を地元の方をお願いした。

夕食会は総領事公邸で専属シェフによる和食のコースを頂戴した。食事もさることながら瀬尾総領事の巧みな話術とあたたかいおもてなしに遅くまでおじゃましてしまった。サハリンでは、総領事の瀬尾正嗣様、文化担当の副領事佐藤嵩道様には実にきめの細かいご配慮を頂いた。多賀さんや再会した松尾さんにも、フリーの時間も含めてすっかりお世話になった。また、通訳のフェティーフ先生には大変ご苦勞をおかけしました。書面を借りて皆様にお礼申し上げます。

また、日露青年交流センターの招聘で来日したサハリン日本センター同窓会クラブ「ディアナ」のイリーナさんと「サハリン日本友好協会」のエレーナさんが初日に来てくれて再会を果たした。イリーナさんのサイトで当日の様子を見ることができる。<http://blognefedova.com/den-kulturyi-yaponii-v-yuzhno-sahalinske-demonstratsiya-kimono-master-klassyi> ロシアのインターネット通信社の記事もご参照ください。<http://citysakh.ru/news/39313/?fotoview=1> (常任理事)